

と し さ い せ い せ い び け い か く
都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

に し ふ な ば し え き し ゆ う へ ん ち く
西船橋駅周辺地区

れ い わ
令和3年3月

ち ば け ん ふ な ば し し
千葉県船橋市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	船橋市	地区名	西船橋駅周辺地区		面積	88ha		
交付期間	平成29年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	604.4百万円	国費率	0.4		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	JR西船橋駅前北口広場(改築)、西船橋駅第10自転車等駐車場、公共サイン							
			提案事業	なし							
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	なし							
	交付期間の変更		当初	平成29年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		事業期間を当初計画より2年間短縮し、それに伴い交付期間も変更となったが、事業は平成31年度に当初計画とおりに完了したことにより事業に対する影響はない。事業期間及び交付期間の前倒しにより、数値目標年次を平成26年度から令和3年度を、平成26年度から平成31年度に短縮し、それに合わせて数値目標値を、4駅定期外乗客数123,000人/日から120,000人/日に、駅周辺部における放置自転車台数70台から80台に変更した。				
			変更	平成29年度～平成31年度							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標1	4駅定期外乗客数	人/日	107,761	平成26年度	120,000	平成31年度	116,561	119,000	△	あり ●
指標2	放置自転車台数	台/日	187	平成26年度	80	平成31年度	98	73	○	あり ●	令和2年度
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	その他の数値指標1										
	その他の数値指標2										
その他の数値指標3											
4)定性的な効果発現状況											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	鉄道各社へ聴き取り調査、市統計資料等によるモニタリング。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●			
	住民参加プロセス			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり体制の構築			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

西船橋駅周辺地区都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: にぎわいのある駅を活かした安全で便利な交通結節点の整備 小目標① 交通結節点の整備改善により、利便性の向上を図る。 小目標② 誰もが安全かつ快適に利用できる環境を構築する。	4駅定期外乗客数	単位:人/日	107,761	H26	120,000	H31	119,000	H31
	放置自転車台数	単位:台/日	187.00	H26	80	H31	73	H31

まちの課題の変化

- 安全・快適な歩行空間等の整備や公共サインを整備することにより、来街者を増加させ、にぎわいと活気にあふれた中心市街地を創出することが出来た。
- 自転車等駐車場の設置により放置自転車数を減少させるとともに駅周辺部における通行上の支障物(放置自転車等)を減少させることが出来た。
- 以上により、来街者数が増加し、当初の目標値を達成することが出来た。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 効果を持続させるために行う方策
 - 自転車等駐車場や駅前広場の維持・継続
 - ・自転車等駐車場や駅前広場の利用者が、今後も快適に施設を利用できるよう、適正な維持、管理を行う。
 - 既設自転車等駐車場の利用促進
 - ・駅から遠い自転車等駐車場へ利用者を誘導することで、自転車等駐車場利用率の平準化を図る。
 - 都市計画道路の整備促進
 - ・駅周辺地域の都市計画道路を整備することにより、駅へのアクセス性と安全性の向上を図る。
- 改善策
 - 放置防止に関する啓発活動
 - ・放置防止に関する啓発活動に引き続き取り組んでいくとともに、より効果的・効率的な放置防止策を実施する。
 - 歩行者・自転車の安全な利用増進
 - ・小中学校等での自転車利用マナーや交通法規の学習を継続していく

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		○4駅定期外乗客数 ・目標年次:R3年、目標値:123,000人/日 ○放置自転車台数 ・目標年次:R3年、目標値:70台/日	○4駅定期外乗客数 ・目標年次:H31年、目標値:120,000人/日 ○放置自転車台数 ・目標年次:H31年、目標値:80台/日	事業期間を2年間短縮して実施したことにより、目標年次及び目標値を前倒しで再設定した。
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	西船橋駅前北口広場改築事業	92.0	駅前広場の整備 A=3, 520㎡	153.0	駅前広場の整備 A=3, 520㎡	交付対象事業費の増額	-	●	
道路									
道路									
公園									
地域生活基盤 施設	西船橋駅第10自転車等駐車場	621.0	A=3,300㎡ 3,550台	446.4	A=2,140㎡ 3,450台	○立体2層,3層式から二段駐輪ラック式への変更とそれに伴う交付対象事業費の減額	-	●	
地域生活基盤 施設	公共サイン	5.7	3基	5.0	3基	○本工事費を実績値にしたことによる交付対象事業費の減額	-	●	
地域生活基盤 施設									
高質空間形成 施設									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
道路事業		市道00-052号線(3・5・32号線)(京成南側)	1,120		平成15年4月～平成29年3月		通学路対策事業が実施されたことにより、安全な通行が確保出来た。	
道路事業		市道00-052号線(3・5・32号線)(京成北側)	797		平成26年9月～平成31年3月		通学路対策事業が実施されたことにより、安全な通行が確保出来た。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	達成度	達成度	あり	なし		
指標1	4駅定期外乗客数	人/日	鉄道各社へ聞き取り調査の実施	95,067	H19	107,761	H26	120,000	H31	モニタリング	H30	116,561	モニタリング	△	●	
										事後評価	確定見込み ●	119,000	事後評価	△		
指標2	放置自転車台数	台/日	放置自転車調査結果	682	H19	187	H26	80	H31	モニタリング	H30	98	モニタリング	△	●	
										事後評価	確定見込み ●	73	事後評価	○		
指標3										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成31年度には、新型コロナウイルスの影響で、平成30年度より2,917人/日減少し、平成31年度の測定値は113,644人/日と目標値より約6,400人/日低くなっている。 一方、新型コロナウイルスの影響のない平成26年度から平成30年度までの推移をもとに平成31年度値を推計したところ119,000人/日となり、目標には1,000人/日達していない。これは、平成28年度～29年度の増加数(1,687人/日)がそれより以前と比較して少なくなっている(平成26年度～27年度2,982人/日、平成27年度～28年度2,178人/日)ことによる。 要因としては、駅前広場の工事が平成29年度から始まり、一時的に利便性が低下したため来街者が減少したと考えられる。しかし、駅前広場工事は平成29年度から平成31年度の3ケ年にわたり3区域に分割して実施され、平成29年度中には一部の工事が完了したことから、平成29年度～30年度には増加数が1,953人/日と増加している。 従って、新型コロナウイルスの影響がなければ、平成30年度から平成31年度も、同程度の増加が続くと想定され、フォローアップ時(令和2年度)には目標値の達成は可能であると考えられる。	各駅定期外乗客数については、各鉄道会社に確認した結果、年間の測定値しかなく、月別に測定推移を見ることが出来ないため、新型コロナウイルスの影響を月別変移で検証することが出来なかった。
指標2	平成31年度の測定値は目標値を達成しているが、これには新型コロナウイルスの影響による駅利用者の減少を検証する必要があった。そのため、平成31年度の月別測定値を検証したが、各年度の測定は4月、7月、10月、1月に実施されており、令和2年1月はまだ新型コロナウイルスの影響が出ていない時期であるため、平成31年度測定値(平均値)は実態を反映した値であると考えられる。また、平成31年度の7月及び10月は、西船橋駅第10自転車等駐車場の第1期及び第2期工事が完了し、自転車の収容台数が増加(1,010台)した時期であり、放置自転車の大幅な減少時期と整合している。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・駅前広場は、従前には外周歩道部から島型のバスバースへ、(横断歩道はあるものの)何処からでも自由に横断でき危険であったが、外周歩道部及びバスバースに柵が設けられたことにより、バス利用者の動線が整序された。
 ・駅前広場内に自動車の通行帯を表示することで(色分け)、停車帯との区分が明確となり、広場内の自動車動線が整序された。
 ・公共サインがまちなかの分かり易いところに設置されたことにより、来訪者にとって目的地を探しやすくなった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
市統計資料等(鉄道会社へ聞き取り調査及び放置自転車調査)によるモニタリング	予定どおり実施した	【実施頻度】過去1回 【実施時期】H30年7月 【実施結果】現状で数値が計測できる指標について交付期間中の変化を確認することができた。	鉄道各社へ聞き取り調査や本市統計書等により確認する。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった(理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備事業事後評価庁内検討会(書面開催)	関係各課(都市計画課、道路建設課、都市整備課)	令和2年9月25日～令和2年10月9日(全1回)	都市計画部都市政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名				放置自転車台数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	西船橋駅前北口広場改築事業			○	駅周辺での自転車等放置禁止区域の設定や放置自転車の監視強化等と合わせて、西船橋第10自転車等駐車場の整備により自転車の収容台数が増えるとともに、駅前広場の整備により自転車を放置しにくくなり、放置自転車が減少した。				
	西船橋駅第10自転車等駐車場			◎					
	公共サイン			—					
提案事業									
関連事業	市道00-052号線(3・5・31号線)(京成南側)			—					
	市道00-052号線(3・5・31号線)(京成北側)			—					

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	自転車等駐車場の活用を促進するとともに、放置自転車の監視強化等により、放置自転車の削減を目指す。
-------	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4			
指標名		4駅定期外乗客数						0			0			
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	西船橋駅前北口広場改築事業	◎	駅前広場が安全で快適に利用できるようになり、アクセス性が高まったことにより来街者が増えるとともに、自転車等駐車場の整備や公共サインの整備により、自転車・歩行者の駅利用が増進した。しかし、駅前広場の工事期間中は、一時的に利便性が低下したため、今一步、目標値達成に届かなかった。	Ⅲ										
	西船橋駅第10自転車等駐車場	◎												
	公共サイン	○												
提案事業														
関連事業	市道00-052号線(3・5・31号線)(京成南側)	○												
	市道00-052号線(3・5・31号線)(京成北側)	○												

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	西船橋駅周辺の商業地については、本市西部地域の拠点として、また、鉄道の乗り換えターミナル駅としての特性を活かしながら、魅力と活力のある「地域拠点商業地」としての更なる活性化を図る。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備事業事後評価庁内検討会(書面開催)	関係各課(都市計画課、道路建設課、都市整備課)	令和2年9月25日～令和2年10月9日(全1回)	都市計画部都市政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
本市の西部地域の拠点として都市機能の整備が図られているところであるが、駅前広場の整備や駅へアクセスする道路の整備により、交通拠点としての機能強化が必要	駅前広場の整備・更新により、本市の西部地域の交通拠点としての機能が強化された。安全で快適な広場空間が創出され、歩行者の安全性が高まった。	本市の西部地域の拠点として駅周辺地区の賑わいを創出するため、商業機能等の充実が必要である。地域の安全で快適な交通環境を更に高めるため、生活道路等の改善が必要である。歩行者の乱横断対策として、歩道上に横断防止柵を設置したが、少数の乱横断が発生している。	一般車両の利用が増加しており、乗降場の必要性が生じている。
歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる施設の整備等により、安全かつ快適なまちの創出を図ることが必要	西船橋第10自転車等駐車が整備され、自転車収容台数が増加し、自転車利用者の利便性の向上等が図られるとともに、放置自転車が減少したことにより、まちのバリアフリー性が向上した。公共サインの整備によりまち中の状況がわかり易くなった。駅前広場や市道の通学路対策整備により、歩行者や自転車が安全に通行出来る空間が広がった。	自転車等駐車の利用増進を図るとともに、更なる放置自転車の減少に努める必要がある。歩行者自転車の通行の安全教育や誘導が必要である。駅舎内の店舗に買い物等で利用する自転車について、放置が見受けられるため、一定時間無料の日ぎめ自転車等駐車場への誘導が必要である。市営駐輪場には、借地で運営している箇所がある。	歩道に公共サインを設置する場合、歩道の有効幅が狭くなり、また案内を見ている人によっても通行の支障になるため、歩行者の快適性と相反する場合がある。公共サインは人目に付く位置に設置することが望ましく、歩道の幅員と通行量と一体的に設置位置の検討を行う必要がある。公共サインの案内図は施設が変わる度に都度変更が必要になるため、案内図の変更作業に手間がかかる。

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	自転車等駐車場や駅前広場の維持・継続	自転車等駐車場や駅前広場の利用者が、今後も快適に施設を利用できるよう、適正な維持、管理を行う。	・道路維持管理事業 ・自転車等駐車場維持管理業務
	既設自転車等駐車場の利用促進	駅から遠い自転車等駐車場へ利用者を誘導することで、自転車等駐車場利用率の平準化を図る。	・既設駐輪場への案内サービスの充実、誘導の強化
	放置実態に応じた対策の実施	西船橋駅への自転車乗り入れ台数に対して収容できる自転車等駐車場は整備されていることから、放置防止に関する街頭指導員による啓発活動を行う。	
	安定した自転車等駐車場の確保	市営自転車等駐車場は借地で運営されている箇所があることから、長期安定的な用地確保を目指す。	
	公共サインの維持管理	案内図に記載のある施設の変更に伴い案内図を随時変更していく必要がある	案内図の改変事業
JR西船橋駅に接続する市道00-052号線の拡幅工事	JR西船橋駅に接続する市道00-052号線を拡幅し、道路の機能性を向上することにより、駅へのアクセス性を持続かつ向上させる。	市道00-052号線道路整備事業	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	放置自転車等の削減の推進	自転車等放置禁止区域内での規制・誘導の強化	自転車等放置禁止区域内の監視強化・継続
	歩行者・自転車の安全な利用増進	小中学校等での自転車利用マナーや交通法規の学習機会を設ける	交通安全及び自転車安全利用教育の実施
	乱横断対策の注意喚起	乱横断を防止するため、注意看板や路面表示等で歩行者に注意を促す。	注意喚起事業
一般車両の乗降場	一般車両の乗降場を整備し、違法駐車対策を行う。	一般車両の乗降場整備事業	

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	4駅定期外乗客数	人/日	107,761	H26	120,000	H31	確定	119,000	△	あり	●	R2年度中	各鉄道会社からのヒアリング	新型コロナウイルスの影響後の状況を見定める必要がある
							見込み			●	なし			
指標2	放置自転車台数	台/日	187.00	H26	80.00	H31	確定	73	○	あり	●	R2年度中	西船橋駅周辺の放置自転車調査結果	新型コロナウイルスの影響後の状況を見定める必要がある
							見込み			●	なし			
指標3							確定			あり	-			
							見込み				なし			
指標4							確定			あり	-			
							見込み				なし			
指標5			H		H		確定			あり	-			
							見込み				なし			
その他の数値指標1			H				確定							
その他の数値指標2			H				見込み							
その他の数値指標3			H				確定							
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

●JR船橋駅周辺地区第3期都市再生整備事業(令和3年度終了予定)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和3年1月18日（月）から 同年2月 1日（月）まで	令和3年1月18日（月）から 同年2月 1日（月）まで	担当課への持参、郵送、FAX、電子メール	都市計画部 都市政策課
広報掲載・回覧・個別配布	市のホームページと担当課窓口で閲覧を周知	令和3年1月18日（月）から 同年2月 1日（月）まで	令和3年1月18日（月）から 同年2月 1日（月）まで		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	市役所・西船橋出張所において閲覧	令和3年1月18日（月）から 同年2月 1日（月）まで	令和3年1月18日（月）から 同年2月 1日（月）まで		

住民の意見	意見無し				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	江守 央 日本大学 理工学部 交通システム工学科 准教授 川崎 智也 東京大学大学院 工学系研究科システム創成学専攻 講師 寺内 義典 国士舘大学 理工学部 建築学系工学研究科建設工学専攻 教授	令和3年2月22日（月）から 同年3月 8日（月）まで	都市計画部 都市政策課	船橋市都市再生整備計画事業事後評価委員会 設置要綱	独自に設置
その他の委員	田島 健吉 西船橋商店会				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		